

2022年度 入学試験問題
帰国生入試

国語

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は30分間です。
3. 問題は□～□までです。
4. 解答はすべて解答用紙に書きなさい。
5. 解答用紙に受験番号、氏名を書きなさい。

① 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

科学の知識は技術に応用され、便利な技術は社会をおおきく変えてきた。ハイテク技術のかたまりのようなスマートフォンは社会に深く浸透し、もうこれなしでは世の中が機能しない。科学から生まれた数々の技術は、すでに現代社会の一部になっている。

だが、そんな科学にも答えられないことがある。まだわかっていないから答えられないのではなく、そもそも答えることができない領域があるのだ。それは人の価値観や判断が関係する領域だ。「なにをどうすべきか」「進めたほうがよいか、やめたほうがよいか」という問いに、科学は答えられない。だれがやってもおなじになるのが科学だから、人によって答えが違うのが当然なこうした問いは、科学は扱えない。

原子力発電所が重大事故をおこす確率はどれだけか、事故の確率を下げするにはどうしたらよいかは、科学で答えられる。だが、事故の確率を下げたほうがよいかどうかは、科学には答えられない。注1 コストとのバランスという価値判断が求められるからだ。(中略)

人の意見を集めて討議し、社会の方向を決めるのは政治の仕事だ。この現代社会には、科学ぬきでは考えられないが、① 科学に聞かれても答えをだせない事柄がたくさんある。そうした領域のことを、アルヴィン・ワインバーグという米国の核物理学者が1972年に書いた論文のなかで「トランスサイエンス」と名づけた。科学と政治が交わる領域ともいえる。

科学にできること、政治がなすべきことは、現実にはしばしば混同される。たとえば原子力発電所は安全なのかという問題。原発を注2 稼働させたい政治家などは、原発は規制をクリアしており、「原発の安全は科学的に保証されている」という言い方をすることがある。だが、科学は原発の

安全を保証することなどできない。原発を社会が受け入れるにあたって、どれだけの「安全」が必要かを決めるのは政治の仕事だ。たとえば「重大事故がおこる確率は1万年に1回に抑えよう」という安全のレベルを決めるのは政治で、それを実現すべく努力するのが科学と技術だ。科学は、政治が決めた「安全」が満たされているかどうかは判定できても、それではほんとうに安全なのかは判断できない。

科学や技術が関係する事柄については、自分は注3 門外漢だから、その判断は科学者や技術者に任せよう。A、それは科学者、技術者が客観的に決めたことだから、自分に責任はない。そうした勘違いが、いまの世の中でしばしば見受けられる。科学者や技術者は価値について判断しない。一人ひとりが社会の将来を決める権利をもつこの民主的な社会では、それを判断するのはわたしたちなのだ。(中略)

科学の知識はだれにとっても共通だから、プラスチックごみについての研究が進めば、それをもとに人々が解決策を話し合いやすくなる。そう思いたいところだが、現実には、かならずしもそうはならない。市民が科学の知識を身に付ければ身に付けるほど、社会は割れて分極化するという指摘がある。(中略)

※米国で取材した読売新聞の三井誠記者が書いた『ルポ 人は科学が苦手』(光文社)という本では、地球温暖化に関する興味深い調査が紹介されている。

現在の地球温暖化については、その原因としてふたつの考え方があある。ひとつは、わたしたちが石炭や石油などの化石燃料を燃やし、温室効果ガスである二酸化炭素が大気中に増えすぎってしまったこと。もうひとつは、地球の気候は自然の状態でも寒暖を繰り返すもので、現在の温暖化もその自然な変動にすぎないというもの。いまの科学では前者が正しいと考

えられている。

では、後者を支持する人たち、つまり人為的な二酸化炭素の排出が原因ではないと考える人たちは地球温暖化の科学に疎いのかというと、けっしてそうではないというのだ。科学の知識が豊富な人たちが、一方では地球温暖化を進める二酸化炭素の排出を減らせと主張し、もう一方では、これは自然な変動の範囲内だから、経済活動を犠牲にして二酸化炭素の排出を抑制するのは意味がないという立場にたつ。(中略)

わたしたち人間には、自分の価値観、ものの考え方、自分の好みに合う情報により多く触れる「選択的接触」、自説を補強してくれる情報だけを受け入れ、都合の悪い情報は無視する「確証バイアス」という性質がある。科学について詳しくなれば、自説に都合のよい情報の選択の幅も広がる。プラスチックごみの問題については、いまのところ地球温暖化や原発ほど立場が割れているようにはみえないが、脱プラスチックを声高にとなえる側も、プラスチックは悪者ではないと主張する側も、それぞれに科学を語っている。話し合い不能なところまで溝が深まらないことを願うばかりだ。

このさき社会はプラスチックとどう付き合っていくのか。陸に海にあふれるプラスチックごみを前にして、なんとかしたいと思う人は少なからずいるだろう。だが、では具体的にどうするかとなると、そこには個人個人のさまざまな価値観、考え方、生活スタイルなどが絡み、ひとつの正解を目指してみんなが協力するという単純な図式にはなりそうもない。

レジ袋の有料^②義務化についても、さまざまな考え方があるだろう。有料化すれば海や陸にごみとして漏れだすレジ袋も減って環境がよくなり、それでみんなが恩恵を受ける。だから、無料だったはずのレジ袋を買うことになっても、それくらいは全体のためにがまんすべきだとい

う考え方。お客さんのためを思ってレジ袋を無料配布する商店の自由を国が制限するのは、そもそもおかしいじゃないかという立場。レジ袋を有料化すれば、金持ちにとってはどうということのない出費でも、苦しい生活をしている人には負担になる。国がこうした不平等を人々に押しつけてよいのか。あるいは、すべての人はこの社会という共同体で生きているのだから、共同体の価値観にあるていど縛られるのは当然だという考え方も。

③ 社会の「正義」とはなにかという大きなテーマにも発展しそうなこれらの立場や考え方の違いは、わたしたちの日常生活においては、結局のところ優劣はつけがたい。これらの違いを内に抱えたまま、プラスチックごみ問題を解決していかねければならない。さきほどの地球温暖化の例でみたように社会を分極させることなく、自分とは違う考えにも

注。リベラルに耳を傾け、上手な落としどころを探し続けるほかないだろう。

また、プラスチックごみの対策には、まだ科学的にも不明な点がたくさん残るなかで、いまずぐ実行していかねければならないという苦しさがある。そもそも、海に出たはずのプラスチックごみの9%は、その行方がわかっていない。その全体像があきらかになってから効果的な対策をたてようとするなら、それはいつになるか知れない。いまの限りある知識を総動員し、想像力もはたらかせながら来るべき事態に備える「予防原則」の考え方も必要だろう。将来も増え続けることが確実なプラスチックごみの悪影響について警戒を怠らず、対策をたてて実行するということだ。(中略)

④ やるべきことはわかっている。正規の処理ルートに乗らないプラスチックごみを減らすことであり、石炭や石油の消費による二酸化炭素の

排出を抑えることである。だが、いずれも、わたしたちの生活をしっかりと支えているものだけに、その実行は容易ではない。市民のほかにも国や関連業界など関係者が多く、利害を含め、それぞれが別の思惑をもっている。市民のなかにも、さまざまな考え方があ

⑤ ここでは、わたしたち「市民」について、もうすこし考えておこう。

手元の国語辞典には「市の住民」「国家への義務、政治的な権利をもっている国民」「近代史のブルジョア」とある。社会学事典を開くと、この2番目の点について、共同体の意思決定の担い手とも書かれている。

B、わたしたちは意思決定の主体だ。だが、さきほど述べたように、わたしたち個人にはいろいろな好みや考え方があり、それを単純に足し算する多数決のような意思のはかりかたでは、社会の分極を招くだけだ。プラスチックのごみの現状、注8 マイクロプラスチックの問題点などを把握したうえで、自分の考えを柔軟に修正していく必要がある。多少は自分の好みに合わなくても、プラスチックごみ問題の解決のために

注9 一肌ぬぐう。これは、いわば理性による判断だ。

(一部内容を省略し、表記を改めました)

【保坂直紀『海洋プラスチック』】

注1 コスト…費用。

注2 稼働…機械を働かせること。

注3 門外漢…その物事の専門家ではない人。

注4 疎い…そのことについての知識や理解が不十分なこと。

注5 恩恵…利益や幸福をもたらすもの。

注6 リベラル…自由であること。

注7 怠る…すべきことをしないで、なまけること。

注8 マイクロプラスチック…直径五ミリメートル以下の小さなプラ

スチックのこと。

注9 一肌ぬぐ…本気になって力を貸すこと。

問一 **A**・**B**に当てはまる言葉を、次のア～オからそれぞれ選

びなさい。(同じ記号は二度使用しないこと)

ア たしかに イ むしろ ウ たとえば

エ あるいは オ なお

問二 線①「科学に聞かれても答えをだせない事柄」とあります

が、科学はどのような事柄に答えることはできないと、筆者は説明していますか。本文中から十五字でぬき出しなさい。

問三 線②「義務」の反対の意味の言葉を、次のア～エから選びなさい。

ア 民主 イ 選択 ウ 自由 エ 権利

問四 線③「社会の『正義』とはなにか」という大きなテーマにも発

展しそうなこれらの立場や考え方」とありますが、その説明として適

当でないものを、次のア～エから選びなさい。

ア 人それぞれ考え方は異なるが、共同体の中で生きている以上どこかで折り合いをつけることから逃れようがないという考え方。

イ プラスチックを使わなくても困る人はいないので、積極的にプラスチックの使用量を減らしていくべきだという考え方。

ウ プラスチックを使えないことでまんを強いられる人も出るが、地球環境の保全のためには仕方がないという考え方。

エ 収入は人によって異なるので、レジ袋が有料化することで負担が大きくなる人が出るのは、問題ではないかという考え方。

問五 ——線④「やるべきこと」の説明として最も適当なものを、次のア～エから選びなさい。

ア ごみを減らすかどうかは、コストがいくらかかるのかで判断して、温室効果ガスを減らすためにはどうしたらよいかを考えること。

イ 科学的に明らかになっていないプラスチックごみの問題点を明らかにして、二酸化炭素の排出をおさえることにつなげていくこと。

ウ 陸や海などが環境汚染の被害を受けないようプラスチックごみを減らしながら、二酸化炭素を減らす取り組みも行うこと。

エ 海に流れ出てしまったプラスチックごみを残すことなく回収するとともに、環境への温室効果ガスの排出をなくすこと。

問六 ——線⑤「ここでは、わたしたち『市民』について、もうすこし考えておこう」とありますが、筆者は「わたしたち『市民』」にどのような役割があると述べていますか。四十五字以内で説明しなさい。

問七 次の一文は、本文の「※」より後の段落の最後に入ります。この文が入る直前の文の最後の五字を答えなさい。(句読点も一字にふくみます)

* とくに地球温暖化や原発の問題のように立場が割れやすいテーマについては、科学をよく知る人たちが、社会の分極の核になつてしま

問八 本文の内容として最も適当なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 原子力発電所についての人々の意見を集め、議論し、安全のレベルを決め、その安全を保証するまでが政治の仕事である。

イ 現在の地球温暖化の原因が、自然の変動によるものだと考えている人たちは、科学についてよく知らない人たちである。

ウ 民主社会を生きるわたしたちには、地球温暖化が抱える問題に対して全員で一つの正解を導いていくことが求められている。

エ プラスチックごみの影響は不明な点も多いが、将来起こる悪い事態を想定してそれを防ごうとすることが大切である。

二 次の1～10の——線のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

- 1 フクザツな構造。
- 2 会議でサンピ両論が出る。
- 3 国連にカメイしている。
- 4 身のケツパクを証明する。
- 5 アサバンの冷え込みが増す。
- 6 年賀状をインサツする。
- 7 審判がアウトをセンコクする。
- 8 芸術への興味を育む。
- 9 祖父母を敬う。
- 10 勇気を奮う。

三

次の1～5の（ ）に当てはまる漢字を入れ、ことわざをそれぞれ完成させなさい。また、似た意味のことわざとして適当なものを、後のア～キからそれぞれ選びなさい。(同じ記号は二度使用しないこと)

- 1 河童かっぱの（ ）流れ
- 2 ()の耳に念仏
- 3 ()泥でいの差
- 4 歳月さいげつ()を待たず
- 5 転ばぬ()の杖つえ
- ア 月とすつぽん
- イ 泣きつ面つらに蜂はち
- ウ 猿さるも木から落ちる
- エ 光陰いん矢のごとし
- オ 石橋いしはしを叩たたいて渡わたる
- カ 猫ねこに小判
- キ 鬼おにに金棒